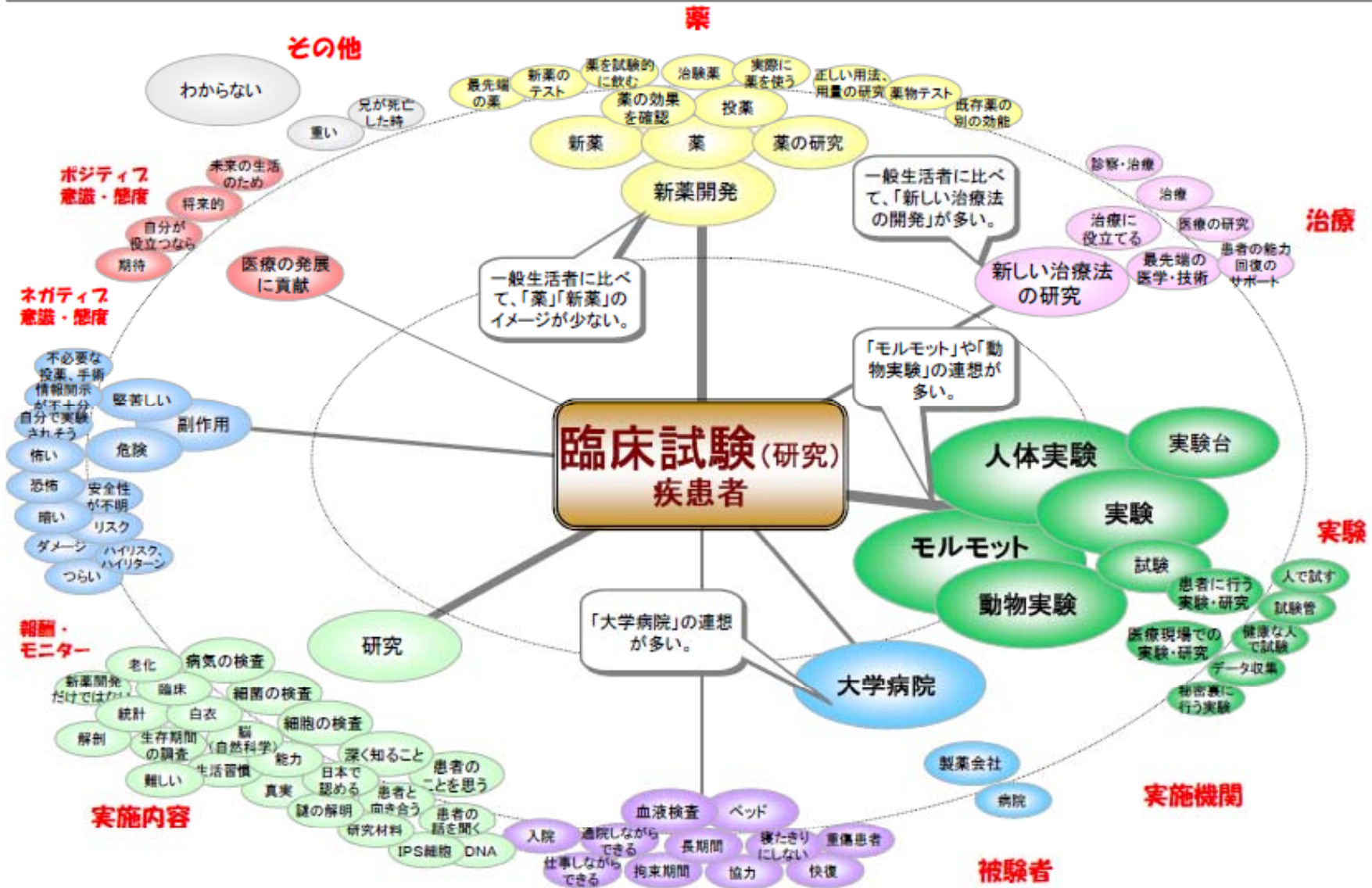
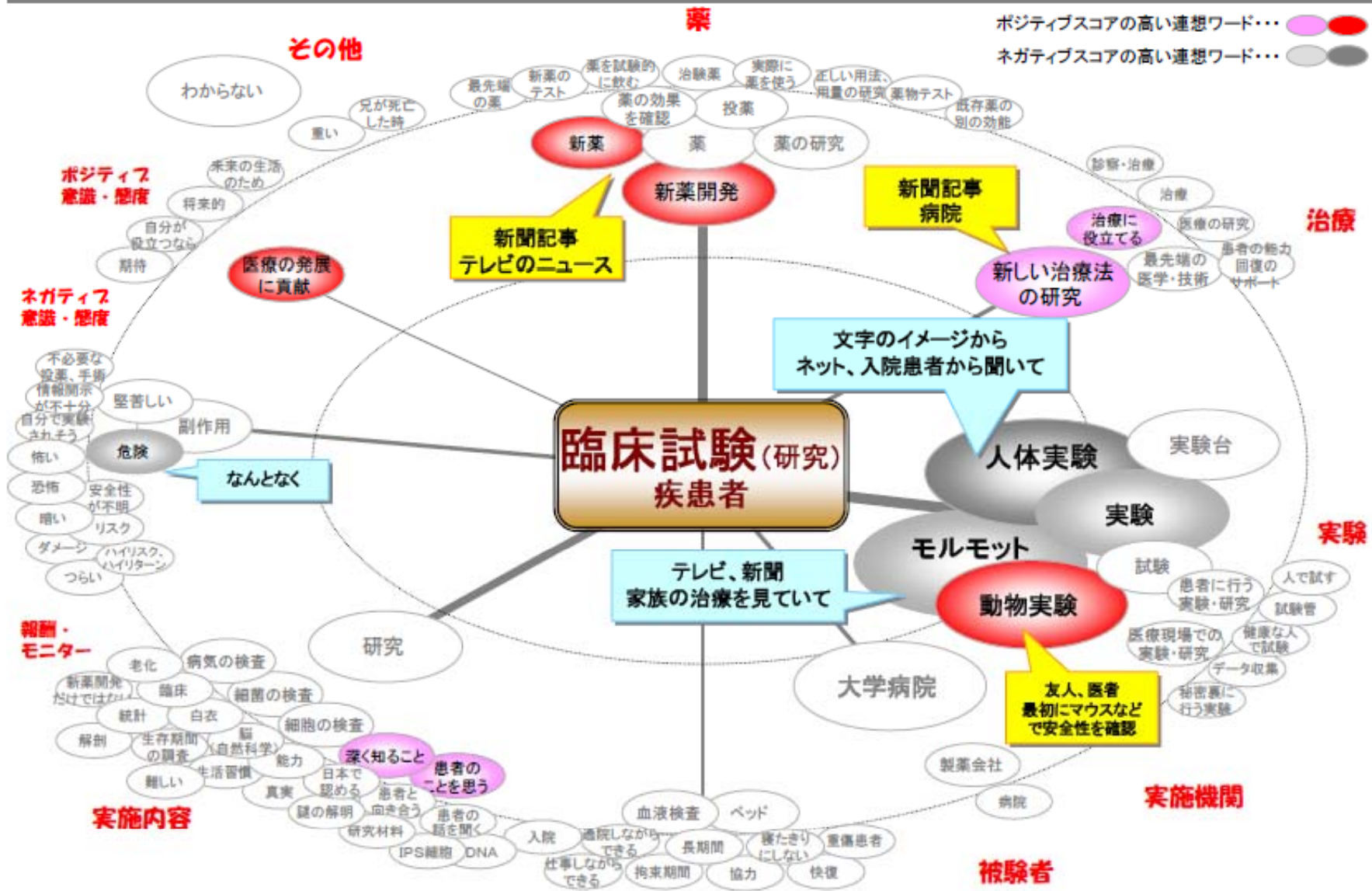


「臨床試験(研究)」からの連想 < 疾患 >



「臨床試験(研究)」からの連想 連想ワードの源泉分析 < 疾患患者 >



疾患者がもつ「臨床試験・臨床研究」の理解・イメージ（まとめ）

- 「臨床試験・臨床研究」の認知率は92%、「聞いたことがない」人は8%と一般生活者と同じだが、理解率は59%で一般生活者と比べると9ポイント低い。
- 「臨床試験・臨床研究」から連想する言葉は、一人当たり平均1.6ワード。
- 最も多く連想された言葉は「モルモット」と「人体実験」、次いで「実験」「動物実験」「大学病院」である。
- 一般生活者に比べると、「薬」の連想が少なく、「新しい治療法の研究」など「治療」の連想が多い。
また、「大学病院」「研究」という言葉が多く出ている。
- ポジティブ意識が高い連想ワードは、「医療の発展に貢献」や「新薬」、「新薬開発」、「動物実験」である。
新聞記事や医者・病院が、連想の源泉になっている。
- ネガティブ意識が高いワードは、「人体実験」「モルモット」などである。

「臨床試験・臨床研究」について実際に情報を得た媒体と情報提供を希望する媒体＜一般生活者＞

■現状と期待する媒体のギャップをみると、「新聞記事」や「テレビのニュース」は現状でも情報源として高く、これからの期待も高い。マスコミの信頼ある情報が望まれている。

■マスコミに続いて「インターネットのニュースサイト」「病院内のポスター」や「医師・看護師など医療関係者」も現状とのギャップがあり、今後の情報提供が望まれている。

